



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

朝倉, 彰

CITATION:

朝倉, 彰. はじめに. 瀬戸臨海実験所創立90周年 (1922-2012年) 記念文集
2013: i-i

ISSUE DATE:

2013-12-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186996>

RIGHT:

はじめに

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所は、京都帝国大学理学部附属瀬戸臨海研究所として、大正 11 年（1922）、当時の瀬戸鉛山村から敷地を購入し、番所崎の桔梗平と呼ばれた地に創設された。日本の理学部系の臨海実験所としては日本においては、東京大学の三崎臨海実験所に次いで 2 番目に古いもので、2012 年に 90 周年を迎えたことになる。また瀬戸臨海実験所付属白浜水族館も、昭和 5 年（1930）6 月 1 日の昭和天皇陛下の瀬戸臨海実験所への行幸 1 周年を記念し、観覧設備を加えて水槽室を水族館として一般公開を開始したので始まりで、2010 年に 80 周年を迎えた。

このような時期に当たって、瀬戸臨海実験所および白浜水族館の歴史や、ゆかりの人たちによる思い出の文書を集めたものの出版を企画したのが本書である。

冒頭の前田英司元所長の文章は、実験所創設 70 周年の 1992 年頃に書かれたものである。前田先生は昭和 1982 年から 1996 年まで瀬戸臨海実験所の所長を務められ、研究と教育に心血を注がれた。この原稿は、準備中のものが所内で回覧されたことがあり、その後、1997 年付けの序文も作成されているが、公表されないまま来て、先生が 2009 年 1 月 29 日に亡くなられたときに、その遺品の中から原稿のファイルが見つかったものである。非常に詳細な歴史的情報が集められており、そのまま埋もれさせるにはあまりにも惜しいと思われたので、奥様に許可を頂いたうえで、今回出版することにした。前田先生の当初の計画では、実験所創設 70 周年までの 1992 年までを網羅するつもりで、各年のファイルも準備をされていたようであるが、実際に詳細な情報が書かれていたのは、1945 年までである。

おそらく、出版する段階になれば、情報の追加や、元の資料に当たっての確認や修正などの作業も想定しておられたものと思われるが、残された者にはそのような作業も不可能なので、全体としての統一性や明らかな誤りの訂正以外は原稿通りに印刷することにした。もし間違いが残っているとすれば、このような形で出版することになった事情によるものとご寛恕願いたい。

なお、以前の歴史などについては、瀬戸臨海実験所五十年史 1922-1972（23 頁の冊子）が、昭和 47 年 9 月に実験所の創立五十周年記念事業実行委員会により発刊されているので参照されたい。

本冊子の内容であるが、同志社大学名誉教授の小林直正氏の文章は、50 年以上にわたって、瀬戸臨海実験所を研究のために利用されてきた中で、見聞されたことをとりまとめたものである。

串本海中公園センター名誉館長の内田絅臣氏の文章は、40 年以上にわたって、瀬戸臨海実験所を利用されるとともに、また同じ和歌山県の水族館関係者として、水族館を眺めて来られた経験から、思い出を書いていただいた。

荒賀忠一・田名瀬英朋両氏は、元瀬戸臨海実験所教員として、また水族館担当として、歴史や体験談を記していただいた。

90 年にわたるこの実験所の歴史の中で、多くの人たちがこの実験所に去来した。また日本の海洋生物学の発展の中で、この実験所に関わってきた人の貢献もまた大きいものがある。そのような思いも含めてこの文集を世に送り出す次第である。

京都大学フィールド科学教育研究センター

瀬戸臨海実験所所長 朝倉 彰